

講師・パネリストの紹介

■中山 直樹(ナカヤマ ナオキ)氏(講師)
環境省 水・大気環境局 海洋環境課
海洋プラスチック汚染対策室 室長
東京大学大学院(生態学)、オーストラリア国立大学大学院
(公共政策)修了。
平成16年に環境省に入省し、世界自然遺産の登録・管理、
国立公園の管理・誘客、野生生物の保護等、国際環境条約
等の業務を担当した後、鹿児島県への派遣を経て令和6年
より現職。
プラスチック汚染に関する条約策定に向けた交渉はINC5
より参加。

■仲嶋 翼(ナカジマ ツバサ)氏(講師)
三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
政策研究事業本部 環境・自然ユニット 地球環境部
主任研究員
2015年 大阪大学大学院情報科学研究科 博士後期課程
修了
2015年 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
入社
現在に至る

■高山 崇(タカヤマ タカシ)氏(講師)
キューピー株式会社 食創造研究所
シニア・コーポレート・サイエンティスト
1990年～ キューピー株式会社入社 マヨネーズドレッシ
ングの開発・品質管理・製造
2003年～ 包材の開発

■後藤 敏彦(ゴトウ トシヒコ)氏(企画委員)
特定非営利活動法人 サステナビリティ日本フォーラム
代表理事
東京大学法学部卒業。
環境監査研究会代表幹事、地球システム・倫理学会常任理
事、認定NPO環境経営学会特別顧問(元会長)、NPO日
本サステナブル投資フォーラム理事・最高顧問、(一社)
グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン理事、
(一社)環境パートナーシップ会議理事、サステナビリティ・
コミュニケーションネットワーク共同代表幹事、(一社)
レジリエンスジャパン推進協議会理事等。
環境省他各種委員会等を歴任。著書論文多数。

■住本 充弘(スミモト ミツヒロ)氏(企画委員)
住本技術士事務所 所長
2004年1月 大日本印刷(株)を定年退職し、以後コンサルタ
ント活動に入る。
世界の包装展視察や世界の企業の包装コンサルタント活動
や国内企業のコンサルタント活動を続けている。
日本技術士会会員、技術士包装物流会会員、日本包装学会
会員、日本包装コンサルタント協会会員、日本包装管理士
会会員
技術士(経営工学)、包装管理士、業界誌に執筆多数

■森 泰正(モリ ヤスマサ)氏(企画委員)
株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン
取締役社長
1972年～2009年 三井・デュポン ポリケミカル(株)勤務
1988年～1990年 米国デュポン社 パッケージ事業部門に
出向
2009年～2017年 三井物産(株) パッケージング・シニアア
ドバイザー
2015年1月 (株)パッケージング・ストラテジー・ジャ
パンを有田氏(現有田技術士事務所 所
長)より承継
現在に至る
海外と日本の最新パッケージング技術の融合を目指す活動
を行っている

JPI本部 人材育成コースのご案内

詳細は当会HP及び各催しのご案内パンフレットにてご確認ください

包装新人研修コース(定員：40名予定)

開 講 日：4月上旬(2日間)
開催方式：対面研修
受講対象：入社0～3年の方
受 講 料：会員1名／約4万円

包装基礎コース(定員：70名予定)

開 講 日：5月下旬(4日間)
開催方式：対面
受講対象：入社3年～4年の方
受 講 料：会員1名／約7万円

第12回包装近未来シンポジウム
(オンライン配信)

プラスチック包装材についての大トレンド

●開催日：令和7年4月25日(金) 13:00～17:00

●主 催：公益社団法人日本包装技術協会

【包装近未来シンポジウムの参加申し込み方法について】
JPIホームページ(URL：<https://www.jpi.or.jp/>)より参加登録をお願いします。
Zoom を利用したオンライン配信となります。
お申込みの方に、事前登録等の手続きをメールでご案内します。

開 催 要 領

●日 時：令和7年4月25日(金) 13:00～17:00
※Zoomを利用したオンラインセミナー形式
申込者に事前登録の手順をメールで連絡します

参加費：	1名分参加費	会員	会員 (3名同時申込1名あたり)	一般
	本体	14,000円	12,000円	23,000円
	消費税10%	1,400円	1,200円	2,300円
	税込合計	15,400円	13,200円	25,300円

●定 員：100名

お問い合わせ先

公益社団法人日本包装技術協会
包装近未来シンポジウム係 担当：小橋
〒104-0045
東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F
TEL:03(3543)1189/FAX:03(3543)8970
e-mail:kobashi@jpi.or.jp

【個人情報の取り扱いについて】

- 個人情報は「包装近未来シンポジウム」の事業実施に関わる資料等の作成、並びに当会が主催・実施する各事業におけるサービスの提供や事業のご案内のために利用させていただきます。なお、作成資料は開催当日、関係者に限り配布する場合があります。
- 参加申込みによりご提供いただいた個人情報は、法令に基づく場合などを除き、第三者に開示・提供することはありません。

参加申込方法と注意事項

【参加申込方法】

- 本催しは「Zoomウェビナー」を利用してのオンライン配信となります。
お申し込みは当会ホームページのシンポジウム参加申込ページよりご登録いただくようお願いします。
当会ホームページURL：<https://www.jpi.or.jp/>
- 参加申込者には参加用URL、参加方法、参加までの手順、注意事項をお知らせしますので、確認の上参加の準備を進めて下さい。(登録後、事前の参加手続きが必要ですのでご注意ください。)
- 申し込みされた方には後日参加料請求書をお送りします。
- 申込者1名のみ本催しに参加できます。1つのメールアドレスで1人しか参加できません。

【注意事項】

- ①「Zoomウェビナー」を利用したオンライン配信となりますのでご利用の端末へのZoomアプリケーションのインストールおよびインターネット接続が必要となります。
- ②接続回線の状況により視聴しにくい場合があります。通信費・接続利用料金等は自己負担となります。
- ③本シンポジウムの内容について、録画・録音・キャプチャー取得によるデータ保存行為を固く禁止します。
- ④申し込みの際メールアドレスの入力が間違っていると案内メールをお送り出来ませんのでご注意ください。
- ⑤開催3日前からのキャンセルによる参加費のご返金はできませんのでご注意ください。

プログラム

時 間	テ ー マ
13：00—13：50	講演① 『プラスチック汚染防止条約交渉の現状と今後の課題』
	現在、国連の政府間交渉委員会においてプラスチック汚染防止条約の交渉が行われている。国連環境総会決議では2024年末までに交渉を完了する目標が掲げられていたが、2024年11月～12月に韓国・釜山で行われた第5回交渉委員会では、各国の意見の隔たりが依然として大きく、交渉を継続することが決定された。本講演においては、プラスチック汚染防止条約交渉の経緯と現状について概説するとともに、今後の交渉において論点となる事項、さらには条約制定が我が国に及ぼす影響等について、最新の情報をもとに解説する。
	講 演 者 環境省 水・大気環境局 海洋環境課 海洋プラスチック汚染対策室 室長 中山 直樹 氏

時 間	テ ー マ
14：00—14：50	講演② 『プラスチック資源循環の海外政策動向について』
	これまでプラスチック資源循環政策の展開をリードしてきた欧州では、近年も、容器包装等への再生材配合の義務付け、ケミカルリサイクル及びマスバランス方式の政策的な位置づけ、バイオマスプラスチックの活用の検討、プラスチック税の導入、リサイクル性の定義等の重要な動きが見られている。一方、米国では、バイデンーハリス政権下で設立された省庁間政策委員会より、2024年7月にプラスチックに関する初の連邦政府全体の戦略が発表されたが、その後、政権交代も経て、政策展望がどう変わるかが注目されている。本発表では、欧米を中心に、プラスチック資源循環に関わるこれまでの政策動向を整理するとともに、最新の動向を紹介する。
	講 演 者 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 政策研究事業本部 環境・自然ユニット 地球環境部 主任研究員 仲嶋 翼 氏

企画委員

本シンポジウムは下記企画委員の皆様のご協力により開催しております。

- 後藤 敏彦 氏 特定非営利活動法人 サステナビリティ日本フォーラム 代表理事
- 住本 充弘 氏 住本技術士事務所 所長
- 森 泰正 氏 株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長

時 間	テ ー マ
15：00—15：50	講演③ 『プラスチック容器の環境対応に対する国内外の考え方と取り組み』
	プラスチック削減自社目標を達成すべく、マヨネーズドレッシング容器の軽量化やリサイクルPETの採用など、プラスチックの使用削減と資源循環を進めてきた。これまではプラスチック削減量に重心を置き、コストや技術・設備的に採用しやすい製品から取り組んできたが、今後はプラスチック削減とともに二酸化炭素排出削減効果や持続性、新しい技術の発展の見通しなど、トータルの環境負荷低減を考慮しなければならないと考えている。環境対策は発展期から成熟期へ向かい、一律の考えに基づいて削減することから、国内・海外の個々の環境や各々の業種に合ったより効果的な取り組みへシフトしなければならないと感じている。今回は、これまでのキューピーグループのプラスチック削減の考え方と取り組み事例とともに、今後のプラスチック削減・資源循環のあり方を紹介する。
	講 演 者
	キューピー株式会社 食創造研究所 シニア・コーポレート・サイエンティスト 高山 崇 氏

時 間	パネルディスカッション
16：00—17：00	『プラスチック包装材料のリサイクルの課題 ～国内向けとEU向けなどの包装製品について～』
	世界の包装業界は、EUのPPWRの影響を受け、プラスチック包装材料を回収し再生再利用を進める方向に進んでいる。更に国際プラスチック条約、米国のプラスチック排出抑制の動きなど、プラスチックの有効利用と再生再利用が喫緊の課題となっている。日本もプラスチック包装材料のリサイクルは必要と理解できるが、具体的な実施において、どのような課題があるかをこの度は討議し抽出したい。
	【パネリスト】
	●講演者 仲 嶋 翼 氏 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社 政策研究事業本部環境・自然ユニット 地球環境部 主任研究員 高 山 崇 氏 キューピー株式会社 食創造研究所 シニア・コーポレート・サイエンティスト 《企画委員》 後 藤 敏 彦 氏 NPO法人サステナビリティ日本フォーラム 代表理事 住 本 充 弘 氏 住本技術士事務所 所長 森 泰 正 氏 株式会社 パッケージング・ストラテジー・ジャパン 取締役社長